

ジュニア科学クラブ2006実施報告

江越航*

概要

当館では小学校 5・6 年生を対象にした「ジュニア科学クラブ」という行事を実施している。これは毎月一回、プラネタリウムで星空や宇宙に関する話題を解説したり、さまざまな科学実験を実施したりすることで、子供たちに科学への理解や興味を深めてもらうことを目的として実施しているものである。本稿では 2006 年度に実施した内容について報告する。

1. はじめに

ジュニア科学クラブとは当館において小学校5・6年生を対象に 2000 年度より実施している事業で、科学館の施設を利用して楽しく科学を学ぶことで、子供たちに科学への理解や興味を深めてもらうことを目的としているものである。学校が週休2日制となったこと、また当館友の会が主に中学生以上を対象にしており、小学生向けの内容の行事への要望があったことから発足したものである。

クラブは8月を除く毎月第4土曜日に9時45分から2時間程度行なった。内容は、プラネタリウムでの星空解説、およびさまざまな科学実験を行なう実験教室もしくは展示場・サイエンスショーの見学を行なった。

2. 申し込み状況

ジュニア科学クラブの定員は 150 名、年会費 3,000 円である。募集の 2 ヶ月ほど前からパンフレット(科学館 NEWS)、館内ポスター・ちらし、ホームページ等で広報を行なった。また、科学館近辺にある小学校 21 校には直接訪れ、校長先生等にクラブの紹介をして、生徒に対する案内をお願いした。直接訪問した小学校からは 44 名の生徒が入会した。

近年、クラブの実施が周知進んだことや、科学教室に対するニーズの高まりから、年々希望者が増えている。今回も募集開始前に、申し込みの状況に関する問い合わせがかなりあった。

2006 年度に関しては、2006 年 2 月 25 日(土)から

受付を開始した。混乱を避けるため、朝 9 時半から整理券を配布して、申し込み手続きを 12 時から行なったが、当日の午前 11 時半ごろには、整理券がすべてなくなった。なお、整理券をもらっても入会手続きをしない方もいたため、2006 年度の会員数は 143 名となった。会員の内訳としては、大阪市内が最も多く 94 名、市内を除く大阪府下が 42 名、府外が 7 名であった。

3. 活動内容

プログラムの前半約 45 分はプラネタリウムホールで、今月の星空や宇宙に関する話題を取り上げて解説した。後半は場所を移動して、実験教室、または展示場において展示物やサイエンスショーの見学を行なった。実験教室は学芸員が担当するほか、今年度より日本 IBM 社会貢献・ボランティアチームにも担当してもらった。

実験教室は1ヶ月ごとに5年生と6年生が交代で行かない、実験教室がない月を展示場・サイエンスショーの見学とした。写真1・2は実験教室の様子である。昨年までは会員が実験は行なわず、学芸員が演示実験を行なう方式が中心であったが、実際に実験を行ないたいという要望が多いため、今年度は1ヶ月交代であるが、会員自らが作業する科学実験を行なえるようにした。具体的な活動内容については、表1に示したとおりである。

IBMのグループが行なった実験の内容については、世界各地の科学館がコンテンツを提供しているトライサイエンス(<http://www.tryscience.org/jp/>)のウェブサイトでも紹介されている。

*大阪市立科学館 学芸課
E-mail:egoshi@sci-museum.jp

表1 2006年度ジュニア科学クラブの内容一覧

日時	参加者	内 容		対象	担当
4/22	132	プラネ	手作りのプラネタリウム	全員	石坂
		実験教室	探査機を宇宙に送ろう	6年生	日本 IBM
5/27	117	プラネ	北斗七星のひみつ	全員	渡部
		実験教室	探査機を宇宙に送ろう	5年生	日本 IBM
6/24	103	プラネ	夏至とはなんだろう	全員	江越
		実験教室	人間電池をつくろう	6年生	岳川
7/21	99	プラネ	望遠鏡のチカラ	全員	石坂
		実験教室	人間電池をつくろう	5年生	小野
9/23	83	プラネ	遠くの星を見よう	全員	渡部
		実験教室	ゆかいなクラクション・音で探る	6年生	日本 IBM
10/28	94	プラネ	月って、どんな星？	全員	嘉数
		実験教室	ゆかいなクラクション・音で探る	5年生	日本 IBM
11/25	80	プラネ	流れ星を見よう	全員	飯山
		実験教室	直視分光器	6年生	大倉
12/23	87	プラネ	初日の出は何時？	全員	江越
		実験教室	直視分光器	5年生	大倉
1/27	82	プラネ	土星って、どんな星？	全員	嘉数
		実験教室	紙の橋を作ってテストしてみましよう・アルミのボート	6年生	日本 IBM
2/24	79	プラネ	オリオン座をじっくり見よう	全員	飯山
		実験教室	紙の橋を作ってテストしてみましよう	5年生	日本 IBM
3/24	79	プラネ	ブラックホールのひみつ	全員	江越
		実験教室	偏光シートで実験しよう	全員	長谷川



写真1 実験教室・探査機を宇宙に送ろう



写真2 実験教室・直視分光器

4. おわりに

IBMのグループの実験の際は毎回10名ほど来ていただいたため、各テーブルに1名ほどの人員を配置して手厚く指導することができた。反面、学芸員が担当する場合は、1名ですべての会員に対応しなくてはならないため、かなり大変な状況であった。

また、実験教室を行なわない月にはサイエンスショーの見学に行くよう誘導したが、実際には会員の多く

はあまり参加しなかったようであった。

現状では人員不足のため、なかなか十分にフォローすることができていない。しかし申し込み状況からも分かるように、ジュニア科学クラブに対する期待は年々高まっている。特に、子供に科学を学ばせたいという親の要望が大変強いものと考えられる。こうした要望に少しでも答えられるよう、今後も行事の内容に改善を加えていきたい。